

がんセンターたより



平成 29 年度のごあいさつ

病院長 大川 伸一

こんにちは。私が昨年病院長に就いてから早一年が経ちました。この一年で神奈川県立がんセンターは何が変わったのか考えてみました。

まず始めに重粒子線治療施設、通称 i-ROCK は実質的な稼働 1 年目を比較的順調に経過できました。日本には当院を含めて五つの重粒子線治療施設がありますが、最初の 1 年間に、予定以外で一度も機械が止まる事無く治療が出来たのは素晴らしいことだと思います。患者さんは多くが前立腺がんの方でしたが、他にも骨軟部の肉腫、肝がん、肺がん、膵臓がんも治療を行っています。今年度はさらに治療数を延ばしていく予定です。

次に、病院の雰囲気明るくなりました。昨年のご挨拶でも述べたのですが、職員が明るい表情でお声がけをする、と言う事を皆で奨励してきました。私も時間のあるときには患者さんの多い午前中に玄関付近に立ち、おはようございます、お大事に、などのご挨拶をしてきました。患者さんは結構、ご挨拶を返してくれます。緊張の面持ちで病院を訪れる

患者さんの気持ちが少しでもほぐれば幸いと思っています。

一方、外来の患者さんが当初の想定以上に多くなり駐車場も満車で待ち時間が出るようになりました。このため今年度からは二俣川駅と病院玄関を結ぶシャトルバスを運行しますので、出来るだけ利用していただければと考えております。

そして今年度は看護師数の多くの増員が実現しました。現時点で新しい定員数までには少し届いておりませんが、それでも昨年度のスタート時より、かなり多くの看護師さんを迎え入れています。

神奈川県はこれからもっともっとがんの患者さんが増えていくと予想されます。私たちは、出来るだけたくさんの患者さんに私たちの医療を受けていただくようお願いしておりますので、これからもどうぞよろしく願い申し上げます。





統括部長就任のご挨拶 統括部長 水落 和也

4月1日付で統括部長を拝命いたしました。同時にリハビリテーションセンター長、機構事務局統括部長（リハビリテーション部門担当）、さらにはがんセンター以外の機構4病院の統括部長（リハ部門担当）の辞令をいただきました。統括とは『いくつかのものをひとつにまとめる事』とありますが、同じ音の統轄には『統一して管轄する』の意味があります。昨年発足したリハビリテーションセンターの医師として皆様の仲間に入れていただいた新参者を、わずか1年でこのような役職にご指名いただき、新鮮な開拓者精神が再び湧き上がるのを感じます。

リハセンターの初年度は年間新患患者975名、リハ実施延べ件数12,000件と予想を上回る実績を残すことができ、新年度はPT5名、OT2名、ST2名、受付クレーン1名と陣容が整いました。リハビリテーションセンターを暖かく応援していただいたすべての方々はこの場を借りて御礼申し上げます。

2025年問題を見据えた来年の診療報酬、介護報酬同時改定では、病院から地域へ、CureからCareへの流れが一層加速するでしょう。早期退院のためには病院と地域ケアシステムとのシームレスな連携が必須です。がんセンターにおける統括とは、この有機的な連携を実現するためにリハセンターと診療科、看護部、患者支援センターとが一体化して質の高い医療を提供することにあると考えます。

一方機構全体に目を向けますと、今年度5病院全体でリハ部門の新規採用者は10名と人員を充実していただきました。リハ医療の重要な対象疾患を網羅する5病院で実践経験を積むことは、セラピストにとって理想的な教育環境です。5病院リハ部門の交流を図り、切磋琢磨して神奈川のリハビリテーション医療をリードすることが機構における統括の仕事と考えています。

トンカツ部長じゃなくって統括部長だからね！よろしくお願いします。



統括部長就任のご挨拶 統括部長 宮下 徹也

本年4月より統括部長として赴任いたしました。手術部長も兼任しております。専門は麻酔全般です。これまで藤沢湘南台病院、国立がんセンター中央病院、横浜市立大学附属病院手術部、佐渡総合病院、藤沢市民病院にて手術室運営の責任者として勤務しておりました。民間、国立、大学、離島、市立と様々な背景のある病院にて改革のお手伝いをして、増加する手術件数に対応して参りました。それぞれの病院に異なった特徴や問題に合わせて解決のお手伝いをして参りました。

この度赴任した理由も当センターが抱える問題に対して変化を求められたためと理解しております。それは手術部や麻酔科のみで行われるものではなく、診療部、看護局、コメディカル、事務の方々など病院全体のご協力なしでは成し得ません。また変化とは単に業務量を増やすことだけではなく、何が無駄かを意識することで成し得ると考えています。医療現場の難しい点として、それぞれがそれぞれの立場で様々な想いがあり、それが行動規範になっていることが多いと思います。それはとても良い事なのですが、過剰になると効率性を著しく阻害することも多々あります。現場の状況に則した安全と効率のバランスの「最適解」を皆さまの想いを理解しつつ探して参ります。そして患者の安全を適正な形で確保し、その上で県民から課せられた当センターのミッションを達成することに集中して参りたいと思います。



看護局長就任のご挨拶 看護局長 丹下 純子

4月1日付で足柄上病院より異動してまいりました、看護局長の丹下純子と申します。県立病院5病院と看護専門学校2校を経験し、初めてのがんセンター勤務になります。どうぞよろしくお願い致します。

がん医療に携わることとなり、家族としてがん治療に係わった経験を改めて思い起こしました。夫が胃がんの診断を受け3年生存率25%と言われながらも、ここがんセンターで多くのスタッフに支えられながら治療を続けることが出来ました。今年で10年目を迎えた節目の年にごんセンター異動となり、これもめぐり合わせなのかとも思っています。

医療の進歩とともに治療の選択肢が広がり、療養スタイルも様々な形に変化しています。患者の一番身近にいる看護師が患者を生活者として捉え、ケアを実践していくことができるよう、リーダーシップを発揮していきたいと思ひます。また、病院長をはじめとする職員の皆様と共に、医療チームの一員として使命を果たせるように取り組んでまいります。



副看護局長就任のご挨拶 副看護局長 杉山 恵子

4月1日付けで本部事務局人事部より異動してまいりました副看護局長（人材確保担当）の杉山恵子と申します。

私は、県立の養成校で専任教員として勤務していたことがあり、神奈川県立がんセンターで看護学生の実習病院としてお世話になっていました。また、ユニフィケーションシステムを活用して、約半年間学ばせていただいたことがあります。多くの卒業生やお世話になった方々とまた一緒に仕事をさせて頂けますことをとても嬉しく思っています。

活き活きとした組織づくりを目指して、スタッフの皆様のご協力をいただきながら人材（財）確保に努め、定着のための方策を計画・実践・評価していきたいと思ひます。

ひとり一人の強みを発揮しながら個々の成長に気づき、楽しく仕事ができるよう教育的なかかわりができるよう支援していきたいと思ひます。どうぞよろしくお願い致します。

遺伝診療科 立ち上げにあたって

遺伝診療科 部長 成松 宏人

がんになる原因は様々です。喫煙、アルコール、食事などの生活習慣が関係することは分かっていますが、もって生まれた体質、すなわち遺伝も少なからず関係しています。

そのなかで、特に遺伝の影響が強いいくつかのがんに対して病院で遺伝学的検査が行えるようになりました。代表的なものには、遺伝性乳がん卵巣がん症候群があります。米国の俳優のアンジェリーナ・ジョリーさんが公表したことで知られるようになりました。「若くして乳がんになる」、「乳がんを多発する」、「卵巣がんも発症する」、などが見られることがあり、一般的な乳がんとは異なる対策をとることがすすめられています。

遺伝カウンセリング外来では、患者さんご本人やご家族に「がんと遺伝」について分かりやすくご説明し、遺伝学的検査を受けるかどうかを決めていただくための様々な支援をしています。

まだまだ、日常の診療で扱えるがんの種類は限られていますが、最近の医学の進歩でがんと遺伝の分野は大きく発展することが期待されています。がんセンターでも今年4月から独立診療科として遺伝診療科をたちあげ、皆様にお届けするがんの遺伝医療の充実を図ることになりました。何卒、ご支援いただきましたら幸いです。



遺伝外来の様子
(イメージ写真：患者役は職員がつとめています)

新任の紹介

職員の異動がありましたのでご紹介します。
紙面の都合上、採用・就任された幹部職員、
医師、栄養管理科長、薬剤科長、
看護科長の紹介に限らせていただきました。
どうぞよろしくお願いいたします。

幹部職員



事務局長
石合 昇一



統括部長
水落 和也



統括部長
宮下 徹也



看護局長
丹下 純子

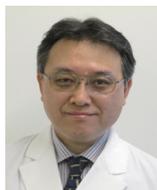


副看護局長
杉山 恵子



経営企画課長
川上 稔

医療局



乳腺内分泌外科
部長
山下 年成



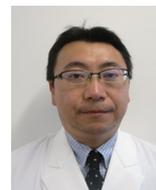
遺伝診療科
部長
成松 宏人



呼吸器内科
医長
佐多 将史



消化器外科
医長
林 勉



消化器外科
医長
菅野 伸洋



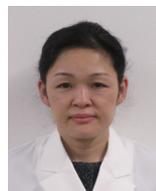
消化器外科
医長
佐藤 純人



消化器外科
医長
風間 慶祐



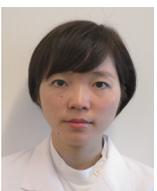
婦人科
医長
最上 多恵



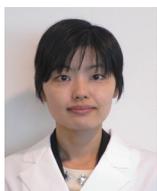
麻酔科
医長
松尾 慶子



歯科口腔外科
医長
光永 幸代



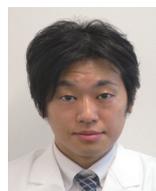
循環器内科
医師
寺中 紗絵



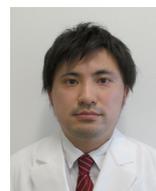
糖尿病内科
医師
堀井 三儀



呼吸器内科
医師
下川路 伊亮



呼吸器外科
医師
稲福 賢司



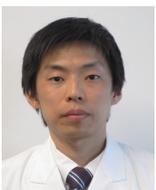
血液内科
医師
石山 泰史



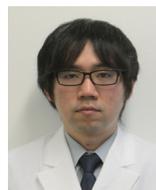
腫瘍内科
医師
新垣 秀樹



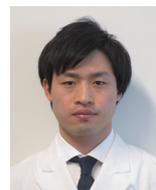
消化器内科
医師
高畑 豪



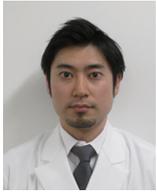
消化器内科
医師
福島 泰斗



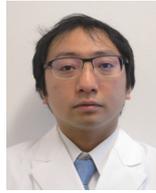
消化器内科
医師
戸塚 雄一朗



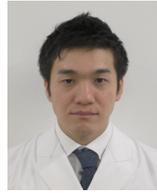
消化器内科
医師
佐野 裕亮



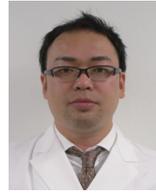
消化器外科
医師
前澤 幸男



消化器外科
医師
刑部 弘哲



消化器外科
医師
中園 真聡



消化器外科
医師
井上 広英



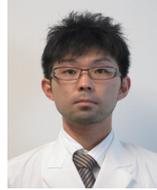
脳神経外科
医師
関 俊輔



乳腺内分泌外科
医師
山崎 春彦



乳腺内分泌外科
医師
松原 由佳



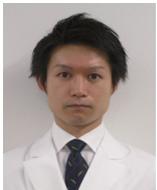
乳腺内分泌外科
医師
根本 大士



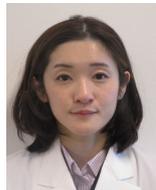
婦人科
医師
内山 亜弥



泌尿器科
医師
野口 剛



泌尿器科
医師
堤 壮吾

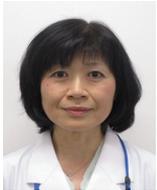


麻酔科
医師
越後 結香

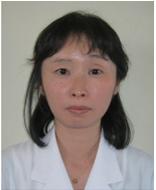


病理診断科
医師
吉岡 恵美

医療技術部



栄養管理科
部長
藤井 理恵薫



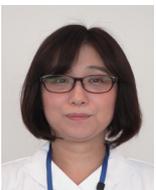
薬剤科
科長
岸本 有佳

どうぞよろしくおねがいします！

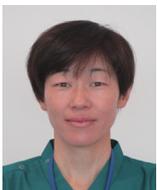
看護局



看護科長
大塚 明子



看護科長
伊藤 知美



看護科長
樋川 教子



看護科長
坪井 香



看護科長
大沼 英子

レジデント (第 31 期生)



医師
阿武 和



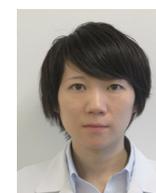
医師
上原 萌美



医師
原 健太郎



医師
矢ヶ崎 秀彦



医師
神谷 真梨子

科学技術週間参加行事・第30回県民のための
公開講演会 が開催されました

臨床研究所・がん治療学部 主任研究員 菊地 慶司

みらいに繋がるがん診療

さる4月18日(火)、二俣川の旭区民文化センター(サンハート)ホールにて、県民のための公開講演会「みらいに繋がるがん診療」が臨床研究所の主催により開催されました。

200人を超える方々にご来場いただきました。まず東京大学医科学研究所教授・ヒトゲノム解析センター長の宮野悟先生が特別講演「東京大学医科学研究所における臨床シーケンス研究～IBM Watson とパソコンによる推進～」にて、がんのゲノム解析と人工知能を活用したがんの診療支援の最先端と将来をお話くださりました。続いて、臨床研究所がん生物学部の越川直彦部長より「がん診断法の現状とトピックス」、臨床研究所がん免疫療法研究開発学部の笹田哲朗部長より「がん治療の現状とトピックス」を紹介いたしました。最後に、来場の皆様から質問用紙にていただいた質問に大川伸一病院長がお答えする「質問コーナー」を、これまでよりも長く時間をとって実施いたしました。

「原因追求の進歩にびっくりした」「最近の診断・治療法がよく分かった」「質問コーナーはよくわかり参考になりました」など、ご来場のおよそ8割の方から好評をいただきました。ご来場下さった皆様、宮野先生・大川先生をはじめ演者の先生方とご協力くださった関係者の方々に感謝いたします。また、今後もこのような講演会を通して県民の皆様ががんの最新情報を的確にお伝えしていけるよう臨床研究所も努力して参ります。



**平成29年度
臨床腫瘍セミナー**

今年度も「臨床腫瘍セミナー」を開催いたします。予定表をご覧ください、興味あるテーマがございましたら是非ご参加ください。

会場：神奈川県立がんセンター
管理研究棟5階 大会議室
時間：18時～19時
対象：医療関係者
連絡先および問い合わせ先：
神奈川県立がんセンター 企画調査室
電話 045-520-2267 (直通)

平成29年度 神奈川県立がんセンター 臨床腫瘍セミナー 予定表

日付	テーマ	所属	講師名 (敬称略)
平成29年			
4月19日	悪性リンパ腫	腫瘍内科	酒井リカ
26日	多発性骨髄腫	腫瘍内科	沼田 歩
5月10日	造血幹細胞移植	血液内科	田中正嗣
17日	Oncology emergency	腫瘍内科	高崎啓孝
24日	食道がん	消化器外科	尾形 高士
31日	肺がん 診断と薬物療法	呼吸器内科	加藤 晃史
6月7日	肺がん(外科治療)	呼吸器外科	永島 琢也
14日	頭頸部腫瘍	頭頸部外科	古川 まどか
21日	放射線治療	放射線腫瘍科	野中 哲生
28日	早期胃がんのESD	消化器内科	井口 靖弘
7月5日	胃がん(化学療法)	消化器内科	西村 賢
12日	胃がん(外科治療)	消化器外科	吉川 貴己
19日	大腸がん	消化器外科	菅野 伸洋
	夏期休暇		
9月6日	せん妄	精神腫瘍科	横尾 美乃里
13日	前立腺がん	泌尿器科	岸田 健
20日	膀胱がん	泌尿器科	梅本 晋
27日	腎がん	泌尿器科	野口 剛
10月4日	肝がん	消化器内科	福島 泰斗
11日	胆膵がん	消化器内科	小林 智
18日	卵巣がん	婦人科	池田 真利子
25日	子宮がん	婦人科	上西園 幸子
11月1日	乳がん	乳腺内分分泌外科	山中 隆司
8日	緩和ケア	緩和ケア内科	太田 周平
15日	骨軟部腫瘍	骨軟部腫瘍外科	比留間 徹
22日	脳腫瘍	脳神経外科	関 俊輔
29日	甲状腺がん	乳腺内分分泌外科	菅沼 仲康
12月6日	消化器神経内分分泌腫瘍の病理	病理診断科	大久保 陽一郎
13日	がん治療と口腔管理	歯科口腔外科	光永 幸代
	冬期休暇		
平成30年			
1月10日	重粒子線治療の基礎	重粒子線治療科	野宮 琢磨
17日	肝がん(外科治療)	消化器外科	山本 直人
24日	周術期リハビリテーション	リハビリテーション科	水落 和也
31日	未定	放射線診断・IVR科	未定
2月7日	褥瘡・ストーマ・がん性創傷のケアの実際	皮膚・排泄ケア認定看護師	舛田 佳子、平澤 真弓、関 宣明
14日	漢方サポート	東洋医学科	林 明宗
21日	がん免疫療法	免疫療法科	笹田 哲朗

患者会「コスモス」定例会

患者会コスモスは 2002 年に始まり、今年 15 年目を迎えます。コスモスの定例会は、癌種や病期を問わず、がん患者さん、ご家族が集い、共に語り、情報を交換する場です。体験者だからこそ分かち合える気持ちや見出した工夫があるのです。

会は毎月第 2 月曜日の午後、当院講堂で開催され、入会も退会もなく、そのときに参加したいと思う方が、自由に集い、40 人ほどいらっしゃいます。当院におかかりではない方も参加可能です。

会に力づけられた参加者が今度は誰かを支援しようと参加する、そんなあたたかな交流と、10 人程の世話人の方々の尽力が、継続の原動力になっているように思われます。

(患者支援センター 相談支援担当科長 清水奈緒美)



平成 28 年度
QC 活動職員表彰最優秀賞
外来化学療法室看護師チーム

私たちは「外来化学療法室における壊死性抗がん薬を含む点滴血管確保の看護師実施への変更」というテーマで、業務改善に取り組みました。

外来化学療法は年々増加しています。その中で患者さんの点滴待ち時間の増加が大きな問題となっていました。そこで、医師が担当していた血管確保業務を看護師が担当することが期待されていました。しかし、抗がん剤が血管外に漏れた場合には炎症や壊死をもたらすことがあるため、血管確保業務に強い抵抗感がありました。そのなかで、段階を踏んで技術習得に取り組み、医師をはじめとした多職種の支援があって、一步を踏み出すことができました。外来化学療法患者数は、今後も増え続けることが予想されます。この取り組みは、患者サービスの向上と診療業務の円滑化に貢献できたと考えています。



Excellent CRCs
治験管理室 CRC 下村 明子

このたび、Excellent CRCs という賞をいただきました。この賞は臨床開発モニターの会社（治験の開発業務をサポートし、治験が適切に行われているか等モニタリングをしたり、諸手続きを行う会社）からいただいたもので、優れたパフォーマンスを発揮し、治験に貢献した CRC に贈られるものということです。そのような賞をいただき、大変ありがとうございます。また光栄に思っております。

私は、2014 年 9 月より治験管理室で CRC として仕事をしております。想像以上に忙しく、また神経を使う仕事に苦労しましたが、CRC の先輩方にご指導いただいたおかげで、このような結果につながり、大変感謝しております。また、治験に関わりのある他部署の皆様にもいつもご協力いただき、大変感謝しております。

治験は日常診療に追加してやらなければならないことが多く、煩雑な部分もあるかと思いますが、今後とも皆様のご協力をぜひよろしくお願いいたします。



ISO15189 認定取得しました 検査科



神奈川県立がんセンター検査科は2017年3月16日にISO15189の認定を取得しました。ISO15189は臨床検査室の品質と能力に関する国際規格で、現在の認定取得施設は国内で117施設、神奈川県では7施設目となります。

認定審査は第三者認定機関による非常に厳しいもので、検体採取(採血)から測定、報告、検体管理など検査に関する事のほか、職員の教育研修や問題が発生した時の処理方法等、検査科全体の品質マネジメントシステムまで対象となります。

ISO15189の認定を取得したことにより神奈川県立がんセンター検査科の検査報告値は世界に通用するものとなります。

臨床の先生方にISO15189により品質保証された検査結果を提供することにより、患者さんは安心して治療を受けていただけると思います。

検査科はISO15189を維持していくため、日々、継続的な改善に努め、より品質の高い検査サービスを提供していきます。

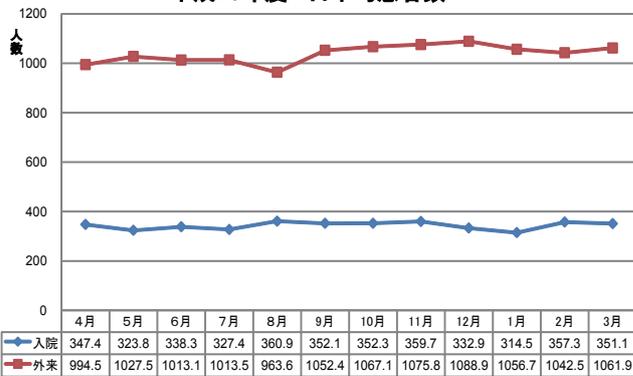


★ボランティア会 ランパス★ による 5月・6月・7月 木曜ミニコンサート予定表

時間：午後2時～(約30分)

5月11日	看護の日コンサート		
		ヴァイオリン	丹沢 広樹
		ピアノ	泉 ゆりの
5月18日	カンツォーネ		安井 慶子
5月25日	ピアノ		清水 真美
6月1日	アコーディオン		園田 容子
6月8日	声楽		小島 三恵子
6月15日	チェロ		饗場 萌子
6月22日	ピアノ		鮫島 明子
6月29日	声楽		福井 早枝子
7月6日	シャンソン		小池 薫
7月13日	声楽		大塚 明美
7月20日	ピアノ		坂本 里沙子
7月27日	ピアノ		寺本 舞依

平成28年度 1日平均患者数



本号に掲載された検査科のISO15189取得は、世界に通用する質の高い医療を提供する基盤作りの一つです。また、5月からは二俣川駅と病院間で無料シャトルバスの運行を始めました。これは患者さんへの思いやりの一つです。新緑が眩しい季節になり、当センターにも大勢の職員が着任しました。新たな仲間とともに一つ一つを積み重ねながら、がん患者さんにやさしくあたたかい医療を提供できる、前進する病院でありたいと思います。(企画情報部長 金森平和)

編集・発行：神奈川県立がんセンター 企画調査室

〒241-8515 横浜市旭区中尾2-3-2

TEL 045-520-2222 (代表)

<http://kcch.kanagawa-pho.jp/>

